

「異校種等との連携を生かした道徳教育の推進」 ～学校段階における実践的課題と改善の方向～

柴原 弘志

1 はじめに

- ◇ ある中学校ブロック内の小・中学校において

- ◇ 「各学校においては、校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に・・・」

- ◇ キーワード 「言葉」と「体験」 「子どもに聴く」
「自分と対話し、言葉を探す」 齋藤 孝 『コミュニケーション力』
「体験なき知見」と「知見なき体験」それぞれの不十分性

2 異校種等との連携を生かした道徳教育推進の視点(学校段階による改善の方向を踏まえて)

- ① はぐくみたい子ども像の共有

- ② 学校間・校種間における教職員の連携・協働

- ③ 道徳教育充実に向けた教育課程の編成や教材・指導方法等の工夫改善

- ④ 家庭や地域等との連携・協力・協働

- ⑤ 「共育」

3 「共育」

「共育」(共に育て、共に育つ教育)

人としての「学び」「育ち」への風土づくり

家庭・地域・学校が一体となって進める教育

「理解」「連携」「一貫性」「徹底」「検証」「改善」が取組のキーワード

共通理解の深化から具体的連携の充実へ

子どもと共に大人も成長し、地域も変わる ⇒ 子どもの健やかな成長

そのためには

子どもと共に考え、悩み、感動を共有し、学び合うという姿勢をもつ (俱学俱進の精神と実践)

常に「ク・セ・ジュ? (私は何を知るか?)」と問いかける自分
謙虚に、他に学ぼうとする姿勢

「脳内の一次方程式 $Y = aX$ 」 養老 孟司 『バカの壁』

「虫の音、小鳥の歌が美しいのも、人間の方に聞く心の支度があるからである。」
大仏 次郎 『石の言葉』

連携・協働による「豊かな道徳性」のはぐくみは、時と場を選ばない!

子どもをとりまくすべての環境を意識した取組として充実させたい!
家庭・地域そして学校がしっかりと連携・協働した取組(共育)を進めたいもの!



ネットワーク・フットワーク・ホームワーク

そして ハートワークを!!

4 おわりに

子どもと共に、立ち止まり、見つめ、考え、伝え合い、

保護者・家族として、教師として、地域住民として、職場人として、

そして

一人の人間として、

一度きりの人生を元気に、豊かに生きていきたいもの

一人一人の「いのち」の輝きを願い、求めて!!

参考

「聴き合える・語り合える・考え合える」場や時間づくり

「言葉化」(←自己内対話) と 「聴き合い・語り合い」を大切に!!

- ◇ 子どもの心に寄り添えているのだろうか? キーワードは「観察」と「言語分析」
- ◇ 孤立化させず、温かい人間関係を築こうとしているのだろうか?!



「聴く」姿勢・「聴き合える」集団 → 「語り合える」仲間

- ◇ 「言葉」と「体験」を大切にした「生きる力」・「人間力」の育成

「中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 審議経過報告 平成18年2月13日」



「中央教育審議会答申 平成20年1月17日」 → 「新学習指導要領 平成20年3月28日」

「言語活動の充実」

体験から遊離した、体験を視野に入れない道徳教育・道徳の時間はナンセンス

より豊かな体験が生じる体験活動の設定とその生かし方の工夫が大切

しかし

活動は計画できても、体験そのものは計画できない。(一つとして同一の体験は存在しない)

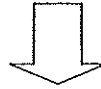
豊かな体験(実践)の場の設定 と 道徳の時間の充実



時間的・物理的限界は?



体験の知的省察・意味付け 道徳的価値の自覚
内的世界の拡大・充実(確かな道徳的実践力)



「体験なき知見」と「知見なき体験」の不十分性

真の意味での豊かな体験を生む可能性

自己と他者の内面的交流 ⇔ 「聴き合い・語り合い」の意義がここにある

共に、内面を見つめること・伝え合うことの重要性

「聴き合い、語り合える」道徳の授業づくりのために

① 指導する教師の基本的姿勢に関して

◇ 児童生徒と共に考え、悩み、感動を共有し、学び合うという姿勢で臨んでいるか

「進みつつある教師のみ、人を教える資格あり」 生、そして善へのベクトルこそが問題
俱学俱進の精神と実践 共育(共に育つ)の意識

児童生徒と共に、立ち止まり、振り返り、人間としての生き方について考える姿勢

◇ 児童生徒の成長及び道徳教育・道徳の時間の教育的効果信じているか

道徳教育・道徳の時間による児童生徒の変容(成長)を信じる

児童生徒一人一人のよさや可能性に着目すべきであり、その課題性を固定的にとらえてはならない。(「ピグマリオン効果」, 「予言の自己成就」的側面への留意)

現象面だけで児童生徒をとらえてはならない。(真の児童生徒理解)

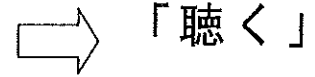
確信として 「彼らはよりよい生き方を模索している」

「人間関係の不思議は、相手の中にあると信じたものが育ってくることである」

ニコライ・ハルトマン

② 資料に関して

- ◇児童生徒の実態に即しているか（ズレはないか）
- ◇内容とその扱い方がねらいの達成に効果的か



多様な資料と活用の創意工夫（先人の伝記等も） 提示法や組み合わせ等も工夫

道徳の時間における資料とは？

ねらいの根底にある道徳的価値やそこからとらえた児童生徒の実態からの資料分析を通して、ねらいの達成に効果的な活用部分や活用方法を明確にしておく。

資料から「人間」が読み取れるか・「人間」と「自分」が深く見つめられるか

- ◎ 心の中を映し出す内視鏡としての資料
- ◎ 心を磨く砥石としての資料
- ◎ 人間としての生き方について考える為の共通の土俵としての資料
- ◎ 近くて遠い資料，遠くて近い資料
- ◎ 複数資料の活用（補助資料としての「心のノート」）

資料の具備すべき要件

- ① 人間尊重の精神にかなう資料
 - ② ねらいを達成するのにふさわしい資料
 - ③ 児童生徒の興味や関心，発達に応じた資料
 - ④ 多様な価値観が引き出され深く考えることができる資料
 - ⑤ 特定の価値観に偏しない中立的な資料
- さらに，
- ⑥ 児童生徒の感性に訴え，豊かな感動を与える資料
 - ⑦ 人間の弱さやもろさに向き合い，生きる喜びや勇気を与えられる資料
 - ⑧ 生や死の問題，人間としてよりよく生きることの意味などを深く考えることができる資料
 - ⑨ 体験活動や日常生活等を振り返り，道徳的価値の意義や大切さを考えることができる資料
 - ⑩ 悩みや葛藤等の心の揺れ，人間関係の理解等の課題について深く考えることができる資料
 - ⑪ 多様で発展的な学習活動を可能にする資料

③ ねらいに関して（中心発問は何?!）

◇ねらいは適切であるか・明確になっているか

あまりにばくぜんとしたねらいになっていないか（「道徳の内容項目」そのままのようなあれもこれもではなく，この時間にいったい何をねらっているのか具体化する。
（「資料中の主人公の～について，共感的理解を深める（ことを通して～）」等，ポイントを箇条書きで示すなどの工夫も）

◇児童生徒の内面(すべてではない)を把握する手立てが用意されているか

児童生徒一人一人における

自己受容（自己存在感・自尊感情）・自己理解（体験，経験の意識化・自己概念の修正）
あれもこれもはできない（評価の可能性と評価活動の実現性は異なるもの）

道徳的実践力 ⇔ 道徳的実践

- ◆ イメージ 熱せられたビーカーの中の水が対流をおこしながら温度を上げていく状態
(気化する = 実践化) (実践力の高まり)

④ 学習指導過程に関して

◇ 道徳の時間の役割と特質を踏まえつつも、弾力的な学習指導過程であるか

◇ 児童生徒が自己への問い掛けを深め、未来に夢や希望をもてるような学習指導過程になっているか

道徳の時間が、単なる「反省の時間」であってはならない

道徳的価値（及び人間としての生き方について）の自覚を深め、主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間

「教えられてわかること」と「自ら求めてわかること」

道徳＝「どう説く」だけではなく、「どう解く」（自己理解や価値の内面化への支援）



体験・経験や自己の内面にある、感じ、思い、意識、考え等を整理する。

- ◆ イメージ 暗い所でこんがらがっている糸を、光を当てながら自ら解き解している姿
「成長する人間に良心をつくってやることは不可能である。ただ良心の声を強めることができるだけである。」 シュプラランガー 『生まれながらの教育者』

◇ 一人一人の体験が十分に生かされた学習指導過程になっているか

体験活動等を生かすなど学習指導の多様な展開

⑤ 指導の諸方法に関して

◇ 児童生徒が自分の生き方の問題として、意欲をもって学習に取り組むよう工夫されているか

道徳の時間における発問とは？

考える価値・必然性のある問いづくり

- ◇ 考えたいような問い（考える必然性のある問い）
 - ◇ これまでには考えたことのないようなことを考えようとする問い
 - ◇ 他の人の考えを聞きたいような問い
 - ◇ 自問・内省できるような問い
（新たな視点の提示、概念くだけき、切り返し、揺さ振り、価値葛藤、心理的葛藤）
- ◆ イメージ ピリヤードのブレイクとその後の玉の動き

自分の考えを基に、書いたり、話し合ったり、討論したり（語り合ったり）するなど表現・交流する場の充実

◇ 効果的な指導体制が工夫されているか

他の教職員や保護者等の参加・協力などによる指導体制の充実

道徳の時間の参観，さらには参画がもたらすものは大きい（一点突破全面展開へ）

多様な人々の参加や協力による道徳の時間の意義（目的ではなく手段）

- ① 道徳教育についての共通理解が深まり、連携・協力が促進され、取組の一貫性、継続性、発展性を図ることができる
 - ② 道徳の時間の取組に対して、量的・質的な一定の水準を維持することにつながる
 - ③ より多様な価値観や体験・経験そして「ほんもの」に触れることができる
 - ④ 児童生徒、保護者、教師間の相互理解が深まる
 - ⑤ 望ましい子育ての在り方について、共に考え、学ぶ機会が得られる
 - ⑥ 人間としての在り方生き方について、共に考え、学ぶ姿勢が培われる
- 共通理解の深化から具体的連携の充実へ（「心のノート」の活用も効果大）

学校・園における道徳教育とは

児童生徒一人一人が自らの道徳性をはぐくむための確かな材料を
しっかりと内在させていますか？！

【確認】 学校・園における道徳教育とは

「幼児期における教育は、・・・生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要なものであり、・・・道徳性の芽生えを培うに当たっては・・・」幼稚園教育要領
「学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、・・・」学習指導要領

||
道徳性の育成を目指す教育活動。 (自然科学・社会科学的認識は不可欠)

||
人格の基盤をなすもの 人間らしいよさ
人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性
道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたもの (一つとして同一のものは存在しない)

〔高等学校〕人間としての在り方生き方に関する教育＝道徳教育が目指すもの
「自分自身に固有な選択基準・判断基準」「人生観・世界観・価値観」の形成

道徳教育改訂のポイント

- (1) 改正教育基本法等の目標等を踏まえて
- (2) 道徳の時間を要として教育活動全体で
- (3) 内容項目の一層の改善 (従前同様すべて取り上げる)
- (4) 校長の方針のもと道徳教育推進教師を中心に
- (5) 学校・学年段階ごとの重点化
- (6) 道徳の時間充実への8つの鍵
 - ① 道徳の時間の目標・特質についての共通理解
 - ② 子どもへの寄り添いと深い内面把握
 - ③ 多様な資料と活用の創意工夫 (先人の伝記等も)
 - ④ 考える価値・必然性のある問いづくり
 - ⑤ 自分の考えを基に、書いたり、話し合ったり、討論したり (語り合ったり) するなど表現・交流する場の充実
 - ⑥ 体験活動等を生かすなど学習指導の多様な展開
 - ⑦ 他の教職員や保護者等の参加・協力などによる指導体制の充実 (道徳教育推進教師の活躍)
 - ⑧ 道徳の時間の指導に関する評価への意識と具体的な取組
- (7) 道徳性の育成に資する体験活動の推進
- (8) 道徳の時間の授業公開など家庭・地域との一層の連携強化

『道 徳 授 業 は か ・ き ・ く ・ け ・ こ』

「道徳授業は難しい。」という声をよく耳にする。評価はあっても評定のない授業。進度にもそんなに頭を悩ませる必要のない時間。児童生徒さえのってくれば、児童生徒・指導者にとって、ある意味これほどゆとりの中で楽しく展開される授業・時間はないのかも知れない。

多くの道徳授業を参観させていただく中で、児童生徒が生き生きと活動し、人間としての生き方について深く考えようとした授業には、いくつかの共通点が見出だされる。

ねらいの設定、資料選定、中心発問づくり、学習指導過程の構想、事前事後指導の検討を進める上で留意していただきたい、「道徳授業づくりのポイント」をキーワードにまとめてみた。

「～べき」タイプの授業（指導者ばかりがよくしゃべる） → べきべき壊れる授業

「～たい」タイプの授業（児童生徒が主役、言いたい聞きたい考えたい） → 大切にしたい授業

道徳授業における「わかる授業」（→「楽しい授業」）とは
道徳的価値・人間としての生き方についての自覚へ

自己の生き方・人間としての生き方という観点から

- ① 自分がわかる（時として気付いていない自分の感じ方・考え方等がわかる）
- ② 他者がわかる（自分以外の人の感じ方・考え方・生き方等がわかる）
- ③ 道徳的価値がわかる（人間として生きていく上で大切なことがわかる）

きける・いえる・かんがえられる 集団

有意義な道徳授業を創造するには 以下の「かきくけこ」を授業の中に！

か 感動・葛藤（価値葛藤・心理的葛藤） → 考えたくなる
語り合い（← 話し合い）

き 共感（的理解）・疑問・気付き・驚き（既成概念・価値観くだき）
聴き合い 共育（共に考え育つ・共に育てる）

く 食い込み（なぜ？どのように？を大切にした重層的発問，反問教師）

け 経験（児童生徒一人一人の具体的生活）の振り返りと活かし

こ 交流（多様な感じ方，考え方） （授業は生きもの）こだわるな！

